

平成8年3月13日第3種郵便物認可 1996年7月8日発行（第2・4月曜日発行）

聴能情報誌

みみだより

会員の誌代は会費に含まれています

第302号 第3巻
通巻387号

編集・発行人：みみだより会、立入 哉 〒300-11 茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷2150-1-1-203 電話：0298-41-7069 FAX：0298-41-5682

字幕放送国会請願署名関係者の皆様

社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事長 高岡正

字幕放送請願、国会で採択される！

字幕放送拡充の国会請願についてのご報告とお礼

当初より取り組まれておりました「テレビの字幕放送拡充」に関する国会請願は、6月18日の参議院及び衆議院通信委員会で、それぞれ通信委員会に関わる第一項目から第五項目まで全会一致で採択され、内閣に送付されるとともに、6月19日の本会議でも全会一致で採択されました。

第六項目（日常生活用具の給付・厚生委員会）と第七項目（著作権法の改訂・文教委員会）は、残念ながら「保留（継続審議）」となりました。これらは難しい問題を含んでいるために、採択にまで至りませんでした。

しかし、国会請願までは採択されない案件が相当ある中で、今回の採択は40万5千名の署名を集めたこと、また全党派の議員に紹介議員になっていただいたことが、今回の大きな成果に結びついたものです。

これも、全国の多くの方々のご協力と熱意の賜物です。心からお礼と敬意を表するものです。ありがとうございます。

今国会でこの案件に関して、通信委員会、厚生委員会、文教委員会で長時間真剣に審議されたことが、私たち聴覚障害者、聴覚障害児の人権の保障、教育権の保障、豊かな文化の享受など大きな理解と前進をもたらすことが予想されます。

今後、この議決が平成9年度の予算に反映されるよう、また秋の国会には関係法案が提出されるよう、推移を見守る必要があります。NHKや民放と番組のスポンサーの会社への働きかけ、地方においても県議会やローカル局に対する働きかけなどあらゆる機会をとらえて、さらに要望を強めていく必要があります。

6月19日が聴覚障害者の空前の記念すべき日になったことを感謝しつつ、皆様方にお礼かたがた、ご報告させていただきます。

署名を集められた際のいろいろな経験、字幕放送に対する願い、これからの運動の提案などをお寄せ下さい。

※転載自由

社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

〒162 東京都新宿区市谷台町14MSビル市ヶ谷台2F

電話 03-3225-5600、FAX：03-3354-0046

NIFTY：MXC05114、E-Mail：tadash-t@aix.or.jp

講座案内

愛媛大学公開講座 「きこえとその活用」

聴覚障害の教育においては、早期からの教育と聴覚の補償が極めて重要であることはいうまでもありません。特に、補聴器による聴覚の補償の第一歩が大切です。また、補聴器を装着した後に聴覚をいかに使い込んでいくかも非常に大きな問題となります。今回の講座は、聴覚補償の考え方から補聴器の適用を中心としたもので、聴覚の学習および活用を加えた実践的な内容での開講を予定しています。

いうまでもなく、補聴器の技術的な進歩には、大変著しいものがあり、特に、補聴器のデジタル化、周波数圧縮変換や乳幼児への人工内耳の適用などは大きなインパクトであり、幅広い聴覚補償とリハビリテーションが可能になりつつあります。

こうしたことを勘案して、今回の講座では、きこえとその補償、聴覚の学習や活用の手だてや指導プログラムの立案について、ワークショップ形式で実技と実習を中心として行なっていくことにより、聴覚障害に関わる専門職としての力を体系的に養成することを目的とします。

- 開講日時 平成8年8月9日(金)～11日(日) 午前9時～午後5時
- 会場 愛媛大学教育学部聴覚言語障害研究室
〒790-77 松山市文京町3番地(電話 089-927-9514)
- 対象 聴覚障害の教育およびリハビリテーションにかかわる学校・学級・施設等の教職員、その他関連する領域の専門職員
- 定員 30人(ただし、同一機関からの申し込みは2名以内とします)。
- 申込方法 平成8年8月2日(金)までに受講申込書に必要事項を記入し、80円切手および受講料6700円(国庫納付金)を添えて、教育学部学務係(〒790-77 松山市文京町3 電話089-927-3320)へ申し込む。

内容

9日 (金)	9:00 ガイダンス 9:30 聴覚の学習とコミュニケーション 高橋信雄(愛媛大学教育学部) 13:00 きこえと聴覚学習の理論と実際 立入哉(筑波大学心身障害学系) ー補聴器の適用と聴覚活用の諸問題ー
10日 (土)	ワークショップ(9:00～17:00) A:補聴器の適用ときこえの活用のための実習 (補聴器の特性測定と調整、デジタル補聴器、周波数圧縮変換型補聴器人工内耳、聴覚の評価、聴力検査、コンピュータ利用の音学習教材等) B:参加者の興味や疑問に応じたコースでのワークショップ (聴覚の学習や指導についてなど、3つ程度平行開催の予定) コーディネータ:高橋信雄・高橋真由美(愛媛県身体障害者福祉センター) 立入哉、中瀬浩一(大阪市立聾)、中井弘征(奈良聾)、八木治(三重聾)、本庄良一(山城高校)他

11日 (日)	9:00 乳幼児期の聴覚活用の理論と実践	澤田道夫 (広島市立山彦園)
	13:00 医学的立場からみた聴覚活用の問題 (人工聴覚の利用を含む)	暁 清文 (愛媛大学医学部)

※講師の都合により一部変更になる場合があります。
受講者の希望により、ワークショップは平行開催します。

下記をコピーしてお使い下さい。

平成8年度愛媛大学教育学部公開講座受講申込書

愛媛大学教育学部長殿

平成8年 月 日

平成8年度公開講座「きこえとその活用」を受講したいので、受講料6,700円を添
て、下記により申し込みます。

申込者氏名	印	性別	年齢
現住所	電話		
	FAX		
勤務先	電話		
勤務先所在地			
希望ワークショップ 希望するほうに○を付けて下さい(希望をお書き下さい)			
A 入門講座 ()			
B 応用講座 ()			

※なお、応用講座に参加される方は、必ず資料を持参して下さい。

ご不明な点は、愛媛大学教育学部聴覚言語障害研究室
高橋信雄 (電話 089-927-9514) へお尋ね下さい。

愛媛大学教育学部では、以下の公開講座も予定しています。後日ご案内申し上げます。

- 11月末に「聴覚障害幼児の教育とそのアプローチ」(定員10名)
- 1月末に「最重度難聴へのアプローチ」(定員20名)

研究会案内

ろう教育科学会第38回大会

魅力ある聴覚障害教育とは

— 親・小・教師の願い —

会期：1996年8月6日（火）～7日（水）

会場：愛媛県視聴覚福祉センター（松山市本町6-11-5）

JR松山駅・松山市駅より市電（環状線）本町6丁目停留所下車徒歩2分

日程：

6日 9：40～13：00 研究発表

1. 立入哉（筑波大学）
「聾学校教員の免許保有率の検討」
2. 平山進（兵庫県立姫路聾学校）
「本校中等部生徒の読話の実態から」
3. 杉田律子（聖十字福祉専門学校）
「普通学級にインテグレートした聴覚障害児の障害の受容過程」
4. 北野庸子他（東海大学）
「人工内耳を装用した先天性ろう児の聞きとり能力の変化」
5. 的場恵他（愛媛大学）
「人工内耳をした小学生の学級適応」
6. 松田千津子
「言語力を発達させる言語指導の在り方」
7. 堀芳枝（岡山大学）
「聴覚障害をもつ5歳児の言語性知的機能の特徴」
8. 古田弘子（筑波大学）
「スリランカの聴覚障害児教育に対する日本の支援体制とその課題」

14：30～17：00 シンポジウム「魅力ある聴覚障害教育とは」

司会：谷本忠明（広島大学）・安川博（愛媛県立松山聾学校）

パネリスト：福田昌子（香川県立聾学校）、向井浩之（安佐南中学校難聴学級）

前田浩（大阪市立聾学校）、佐藤香代（聾学校卒業生）

須田将広（普通校卒業生）、檜垣まち子（保護者）、川中シゲ子（保護者）

18：00～懇親会

7日 9：30～12：00 分科会

「学習活動」「家族のかかわり」「地域とのかかわり」

「これからの学校」「就学・進路」

13：30～14：30 分科会まとめ

14：30～16：30 特別講演「聴覚障害教育の展望」

井原栄二（愛媛大学教育学部）

参加申込の方法・・・・・・・・

FAX：089-927-9396「ろう教育科学会事務局：高橋信雄先生」あてに
お名前と所属分科会（学習、家族、地域、学校、就学・進路）と、
所属、住所、（手話通訳・要約筆記）の希望を明記して、送信する。

大会参加費：5000円、学生会員と保護者は2000円、高校生以下は無料

ろう教育科学会

講習会のご案内「言語指導と教科学習」

— その谷間にある諸問題 —

皆様にはご健勝のことと存じます。

さて、今年度のろう教育科学会主催の講習会は「言語指導と教科学習」というテーマで企画しましたので、ご案内申し上げます。

この問題は聴覚障害教育においては古くて新しい問題で、いつの時代にも最重要課題の一つとして取りあげられるものです。ろう学校にも新任の先生方が増え、新たな方向性が求められる時代になりました。

そこで、「けんちゃんは何で本が読めないか」、「どうして本が読めるようになったか」、「どうして話ができるようになったか」の著者である坂本多朗先生をお招きして、言語指導と教科学習の関連づけや実際の指導について学びたいと考えました。

これからの聴覚障害児教育を考える上でも、「言語指導と教科学習」を実践的に学ぶことは、非常に有意義なものになると考え、本講習会を企画しました。

皆様の多数のご参加をお待ちしています。

期 日：1996年8月8日（木）

会 場：愛媛県視聴覚福祉センター4階ホール（松山市本町6-11-5）
JR松山駅・松山市駅より市電（環状線）本町6丁目停留所下車徒歩2分

講 師：**坂本多朗**（元大阪府立堺壘中学校長、元大阪教育大学非常勤講師）

日 程：9:30～10:00 受付
10:00～12:00 ことばの指導における教科学習への準備
13:00～16:00 教科学習の中でのことば指導の取り入れ方とその指導
16:00～16:30 質疑応答

参加費：5000円

定 員：150名（定員に達し次第締め切らせていただきます）

申込方法：7月31日（水）までに、下記の事務局まで、氏名・住所・所属・（手話通訳、要約筆記の希望）を送信し、郵便振込「00980-8-310105：ろう教育科学会」宛てに、参加費を送金する。

FAX：089-927-9396「ろう教育科学会事務局：高橋信雄先生」

字幕放送

NHK教育番組でオープンキャプション放送

全難聴による字幕放送に関する署名活動が進んでいる最中に、本当に画期的なことがおこっていた。なんとNHK教育番組でオープンキャプションによる字幕放送があったのだ。放映日は6月25日(火)、27日(木)、7月2日(火)、4日(木)の10:15~10:30。「いってみよう、やってみよう」という番組のテーマ「花をうえよう」の内容。

「オープンキャプション」とは、字幕放送用のデコーダが内蔵されていない普通のテレビであっても、最初から映像に字幕が入っているので、字幕を見ることができるとのこと。

今回は、NHKから番組制作依頼があった尼崎市立北難波小学校で、難聴学級の子どもが出演することになり、同校の強い求めで、全編に字幕が付くことになった。NHK教育番組に字幕が付くことは画期的なこと。ぜひ、字幕を付けたNHK大阪放送局に支援と感謝の手紙を送って下さい！。

なお、番組を見逃した方のために編集部で番組のビデオをダビングしてお渡しします。但し、NHK大阪放送局への励ましの手紙を書くことが条件です。

励ましのお手紙は・・・
〒540-01(住所不要) NHK大阪放送局「いってみよう、やってみよう」係



字幕番組へ助成10倍増

来年度2億円
郵政省要求へ 放送義務化も検討

郵政省は二十二日、欧米に比べ放送時間が少ない日本での字幕放送番組を増やすため、来年度の概算要求に二億円を盛り込み、テレビの字幕放送番組の制作費に対する助成を行う方針を決めた。さらに、すべての民放に字幕放送を義務づけるため、放送法の改正作業などにも着手した。

現在は障害者利用円滑化法にもとづき、十億円の基金の運用益で字幕番組の制作費を助成しているが、低金利のため昨年度は百八十八本の番組、約一千八百五十万円の助成しかできなかった。二億円の要求が認められれば、助成は十倍以上に増えることになる。

放送法の改正では、①字幕放送のすべての民放への義務づけ②文字多重放送免許がなくても放送できるよろにするなどが柱。

同省によれば字幕放送は米国の四大ネットワークでは七割の番組に達している。しかし、日本では実施しているのは民放では百二十三局中十四局に過ぎず、二十八道県では視聴できない。さらに、放送時間もNHKが全放送時間の一一・八%、関東地区の民放五局で二%と進んでいない。

朝日新聞
6月
23日

Private Page

パレスチナから帰ってきました。現地では、アトファルナ聾学校のオージオロジーセクションの指導をして参りました。その内容、報告記など、特集号を組み、ご報告したいと思っております。留守中、FAXやお電話いただいた諸先生方、お返事ができず申し訳ございませんでした。また、帰国後も、たまった仕事をこなすために、あらゆる仕事が遅れております。順次お返事を差し上げております。もう少し、お待ち願います。

写真上：聴力検査をする
アシュラフ

写真下：アトファルナの子ども



7～8月のスケジュール

今月、どこかで
お会いできます
ことを楽しみに
しております。

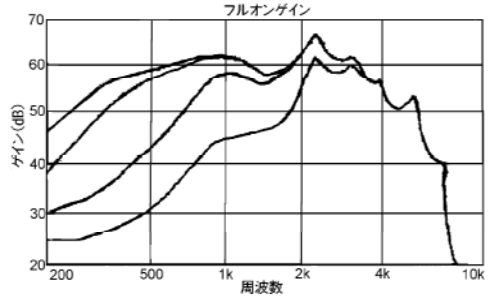
- 7月6日 金沢市額小学校
- 7日 宝塚中途難聴者の会結成10周年記念大会
- 8日 AMみやこ園、PM大阪市立聾学校
- 9日 AMこばと聾学校、PM京都府立聾学校
- 10日 AM奈良聾学校
- 12日 ホナックセミナー（東京）
- 15日 東京で補聴相談
- 19～21日 人工内耳Workshop（大阪）
- 22日 千葉県立館山聾学校
- 25～27日 研究会
- 28日 日本聴覚医学会補聴研究会
- 30日 埼玉県南教育センター
- 8月1～4日 日本聴覚障害・教育工学夏期講習会
- 6～7日 ろう教育科学会
- 9～11日 愛媛大学公開講座
- 19日 言語聴能夏期実践講座
- 21日 徳島にて通級制担当者会
- 23～24日 茨城県難聴児を持つ親の会
- 26～28日 筑波大学公開講座

新製品情報

アメリカTELEX社が
世界3機種目のBTE・FM補聴器を開発

アメリカTELEX社が世界3機種目のBTE（耳かけ形）FM補聴器を開発した。器種名は「SELECT 2-40」。この器種名が示すように、1台の補聴器で2つに周波数を同時に受信でき、チャンネルも40チャンネルから選ぶことができるという。その他の特徴は以下の通り。

- ・スケルチ対応
- ・SPL、Gain、TONEの3つの調整機能を持つ
- ・アダプティブ・コンプレッション搭載
- ・環境音より4dB、FMマイクからの音を強調可能



【音質調整器の効果（ダンパー入り）】

MAXSSPL90 142dB、FOG 69dB
電池電流 4mA(HAonly)、7mA(FM+HA)

雑誌紹介

聴覚障害・補聴器を取り上げた雑誌

1. 毎日ライフ・・・『耳鼻咽喉科の病』を治す
わたしの診療日記「補聴器」佐竹虎介
耳鼻咽喉科の主な病気 徳増厚二（北里大学）
滲出性中耳炎—小児の場合 本庄巖（京都大学）
耳鳴りと原因と治療 神崎仁（慶応大学）
人工中耳と人工内耳 暁清文（愛媛大学）
めまいとメニエール病 坂田英治（埼玉医科大学）
毎日ライフ、96年3月号、毎日新聞社刊、500円
2. サライ・・・耳の友達を探す
最適の補聴器入手ガイド
内容：一般的な補聴器解説
一販売店の紹介
各メーカーによるミニカタログ
サライ8号（4月18日号）、小学館刊、380円
3. SPA！・・・障害者達が笑うメディアの「障害者ブーム」
『障害者自身が語る。「ボクたちは障害者ドラマをこ
う観た』』など
SPA（3月27日号）、扶桑社刊、300円



字幕付き映画

字幕付きアニメ映画のご案内

松竹夏休みアニメ映画で**字幕が付いている**フィルムが上映されます！（一部劇場、一部期間）。上映映画は下記の三本立て。松竹株式会社では、「息子」「学校」「時の輝き」など字幕入り邦画の製作に取り組まれています。ぜひ、応援をお願い申し上げます。

「忍たま乱太郎」
「トイレの花子さん」
「はむこ参る！」

なお、秋には「学校Ⅱ」「宮沢賢治」の映画にも字幕が付くそうです。

お問い合わせ先：松竹株式会社 映画営業部
(高橋) TEL:03-5550-1592, FAX:03-5550-1647

東 日 本	札幌松竹	7/20~7/31	011-231-2303
	仙台松竹	7/24~7/25	022-222-5252
	新潟松竹	7/28~7/29	025-299-3045
関 東	宇都宮松竹	8/1~8/2	0286-37-8300
	松竹大宮シネ	8/5~8/6	048-642-5321
	千葉京成	7/24~7/25	043-222-8003
	柏松竹	7/28~7/29	0471-53-0760
	川崎チネック	7/20~7/21	044-211-6125
中 部	丸の内松竹	7/20~8/9	03-3214-3366
	静岡松竹	8/9のみ	054-253-2564
	名古屋松竹	7/24~7/26	052-551-4550
	富山松竹	7/20~7/21	0764-25-0228
	金沢松竹	8/6~8/7	0762-33-1707
	豊橋松竹	7/29~7/30	0532-53-1131
岐阜自由劇場	8/2~8/3	058-263-5522	

近 畿 ・ 中 国	梅田松竹	7/20~7/21	06-315-1414
	松竹浪花屋	8/7~8/9	06-211-1433
	京都ピカデリー	7/28~7/29	075-221-6411
	三宮シネエックス	8/7~8/9	078-392-0271
	広島東洋座	8/1~8/4	082-246-0500
和歌山シネマ	岡山松竹	8/1~8/4	086-223-3143
	和歌山シネマ	7/24~7/25	0734-33-0444
九 州	福岡松竹	7/26~7/28	092-281-4662
	小倉松竹	7/20~7/21	093-541-4951
	久留米松竹	8/2~8/3	0942-32-5266
	黒崎松竹	7/23~7/24	093-621-5443
	長崎松竹	7/30~7/31	0958-22-8146
	熊本松竹	8/5~8/6	096-354-3611
宮崎松竹	8/8~8/9	0985-27-9870	

詳しくは各劇場にお問い合わせ願います。

CAI

アメリカ
Foundations in Speech Perceptionが**ソフトを開発**

Cochlear社が援助しているFoundations in Speech Perceptionは、3~12歳の子どものための聴覚学習用ソフトウェアを開発した。これは、PCあるいはMAC上で動くCD-ROMで、子どもだけでも操作できる。視覚の手がかりが付いた、本当に録音された声が出るが、子どものスキルによって、視覚の手がかりが少なくなっていくようになってきている。人工内耳の手術を受けた子どもの訓練用に開発された。



講座ご案内

第3回 「聴覚障害児理解のための基礎講座」

今年も大阪市立聾学校聴能教育研究班主催の公開講座を下記の要項にて開催いたします。講演会の他、聾学校の施設・設備の公開、学習・交流会をおこないます。ぜひ多くの先生方のご参加をお待ちしております。

1. 日時：1996年7月24日（水） 午前9時30分～午後4時30分
2. 会場：大阪市立聾学校（大阪市中央区上町1-19-31）
地下鉄谷町線 谷町6丁目下車徒歩約10分（①出口）
谷町線・中央線 谷町4丁目下車徒歩約5分（⑩出口）
3. 受講料：無料
4. 参加資格：聴覚障害者を担当、または聴覚障害児教育に関心のある教師
5. 申し込み：
FAXにて、氏名・所属・連絡先（TEL & FAX）を下記までご送信願います。
FAX：06-762-1800
6. 申し込み締切：1996年7月19日（金）
7. 定員：30名
8. 主なプログラム
9:30～10:00 開講式
10:00～11:30 講演「聴覚障害者の保護者として先生方に望むこと」
稲田利光氏（大阪難聴児を持つ親の会会長）
11:30～11:45 諸連絡
13:00～14:30 講座Ⅰ：以下の講座から1つを選択
「聴力検査」「発音指導入門」「補聴器入門」「手話入門」「FM補聴器」
14:40～16:10 講座Ⅱ：以下の講座から1つを選択
「聴力検査」「発音指導入門」「補聴器入門」「ケース相談会」
16:10～16:30 閉講式
17:00～ 懇親会（希望者のみ）
9. お問い合わせ：大阪市立聾学校聴能教育研究班（担当：中瀬浩一）
TEL：06-761-1419 FAX：06-762-1800

講師紹介・・・

稲田氏は、20年間の長きにわたって大阪難聴児親の会の会長を務められており、現在は全国の会の副会長にも就かれています。ご自身の子育ての経験から、聴覚障害児をもつ保護者の相談役として、多くの保護者からの信頼を得ておられています。聴覚障害児の教育環境や配慮についての見識も深く、先生方への期待や要望も多くもっておられます。ご多忙の中、保護者として、ぜひとも先生方に知っておいてほしいことをお話ししていただけたこととなりました。親の率直な気持ちを伺うことで、今後の教育実践の糧にいただければ幸いに存じます。

フィッティング・フォーラム'96予告

今年は研究会の事務局続きでバテギミです。「もう今年はやめるべ」と思っていたら、結局、尻をたたかれてしまいました。今年の、テーマは「certification（資格）」です。言語療法士・医療言語療法士・認定補聴器士などなど、補聴器に関する業務を含む資格化が進んでいます。専門性を高めるためと、もう1つ、学校においては、教員の移動に対抗する意味合いも含まれるかも知れません。つまり、せつかく何年もかけて、補聴器を学んだにもかかわらず、10年目の肩たたきで移動させられると言うようなことを、資格化することで、少しでも防げるのではないかとも思うのです。

資格化の是非、資格化するにはどうしたらよいのか、名称は、認定の方法は・・・などについて、論議したいと思っております。

日時：1996年10月19日（土）

会場：水戸市内か、つくば地区

テーマ：「certification（資格）」を考える

パネリストを募集します。自薦・他薦なんでも構いません。ぜひ、お知らせ下さい！。9月に全国の聾学校に、詳しい参加申込書をFAXで送信します。

※また、今年は宿舎の手配は致しません。御参加各自でお願い申し上げます。

私にとって三週間にも渡る海外滞在は初めての経験だった。ガザで得た多くの思いは徐々に御紹介するとして、まずは最初にビールの話をしたい。

現地に赴き、荷物を置いて、まず喉の乾きを潤してくれるのは何と言ってもビールだ。日本にいと何十種類のビールが市販されているが、そのどれも個性のなさに呆れることがある。海外に出て、たとえば生温かい黒ビールの妙な美味しさや、目がつぶれるのではないかと思うようなアルコール度の高いビールにも出会うことができる。そして、それらのビールが延々とした個性の歴史を持っている。

日本の社会の没個性がビールにも出ている。「夏」という名が付くビールが出たとして、ビール会社は横並びで同じような味の夏ビールを棚に並べる。

一步日本に出てみると、そうした没個性の日本社会のおかしさに気付く。教育の世界でも、「個性を尊重した教育」とは看板だけで、中身は制服・下請け教育・年功序列・つまらない義務研修など、子どもにも教師にも自分の個性を抑える生き方を要求する社会がある。

「ああ、いやんなっちゃうな」とは、ロンドンからの飛行機の中で久々に朝日新聞に目を通した時の気持ちである。そして、せめてビールくらいは没個性がいいと、イスラエルビールの味を思い